

日時：2021年11月11日(木) 18:00 開始 場所：Web開催 (Zoom)

出席者(順不同、敬称略、下線は議決権者を示す)：

大阪府病院薬剤師会	<u>竹上 学</u> 、土井克彦	京都府病院薬剤師会	<u>四方敬介</u> 、橋元 誠
兵庫県病院薬剤師会	<u>室井延之</u> 、矢野育子、楨本博雄		
奈良県病院薬剤師会	<u>奥野智之</u> 、小川恵美子		
滋賀県病院薬剤師会	<u>山川雅之</u> 、早川太朗、伴 正		
和歌山県病院薬剤師会	<u>簀 忠宏</u> 、河崎尚史	大阪府薬剤師会	<u>伊藤憲一郎</u> 、堀越博一
京都府薬剤師会	<u>小林篤史</u>		
兵庫県薬剤師会	<u>笠井秀一</u> 、三宅圭一、住谷庸子	奈良県薬剤師会	<u>堀本佳世子</u> 、楠本真也
滋賀県薬剤師会	<u>大迫芳孝</u> 、隠岐英之、渡邊真樹	和歌山県薬剤師会	<u>稲葉真也</u> 、竹谷美賀子
京都薬科大学	<u>橋詰 勉</u> 、津島 美幸	京都大学	<u>山下富義</u> 、津田真弘
同志社女子大学	<u>芝田信人</u> 、関本裕美、成橋和正	大阪大学	<u>上田幹子</u> 、廣部祥子
大阪医科薬科大学	<u>角山香織</u> 、井上 薫	近畿大学	<u>大鳥 徹</u> 、小竹 武
摂南大学	<u>菊田真徳</u> 、辻 琢己	大阪大谷大学	<u>名徳倫明</u> 、小畑友紀雄
武庫川女子大学	<u>内田享弘</u> 、田内義彦	神戸学院大学	<u>徳山尚吾</u> 、森本泰子
神戸薬科大学	<u>白木 孝</u> 、濱口常男、猪野 彩	兵庫医療大学	<u>清宮健一</u> 、桂木聡子姫
路獨協大学	<u>柳澤吉則</u> 、加藤史恵	立命館大学	<u>藤田卓也</u> 、角本幹夫
和歌山県立医科大学	<u>須野 学</u> 、安原智久	徳島文理大学	四宮一昭
徳島文理大学香川校	<u>二宮昌樹</u>	就実大学	島田憲一
福山大学	片山博和		
監事	谷口昌彦(奈良県病院薬剤師会)		
薬学教育協議会	平田收正(和歌山県立医科大学)		

議事に先立ち、濱口委員長から出席予定者の氏名、所属に関して修正の説明がなされた。その後、第112回病院・薬局実務実習近畿地区調整機構委員会次第に従って進められた。

協議事項：

1. 2021年度実務実習について

濱口委員長より、2021年度第3期の薬局実習、病院実習が終了し、機構には大きな問題は寄せられていないとの説明がなされた。委員会出席の委員からも特段問題の報告はなく、第3期の実習は無事に終了したものと了承された。

2. 2022年度実務実習施設調整の進捗状況について(資料 協1)

濱口委員長から、資料(協1)に基づき、2022年度実務実習施設調整について説明がなされ、承認された。

なお、説明の過程で、以下の確認及び要請が行われた。

- ・[3.(3)]病院実習の調整において、各府県病院薬剤師会に1次エントリーデータを送付し、いただいた意見をふまえて大学間の2次調整をWeb上で行ったが決着せず、急遽Web上での3次調整を実施した。14大学の協力により、3次調整で全ての調整が終了したため、予定されていた担当者会議は中止した。なお、従来、担当者会議で中・四国地区のオブザーバー校の病院施設調整を実施しているが、担当者会議が中止となったため、委員長、事務局長及び事務局長補佐の協議によりオブザーバー校の施設調整を実施した。その後、資料に示したスケジュールの通り調整をすすめ、2022年度の病院施設の調整は完了したが、現時点までに、留年、休学等の学生の事情により、各大学から決定した施設の辞退が生じている。12月上旬には、確定している病院施設に対して機構より依頼状を送付する。
- ・[3.(3)]薬局調整は、11月9日(火)に各府県薬剤師会に各大学の学生情報を提供し、施設の最終調整を依頼した段階である。今後、12月中旬を目途に各府県薬剤師会から調整結果をご回答いただき、実習が確定した薬局施設への連絡は従来通り各府県薬剤師会からお願いしたいとの依頼がなされた。また、確定した実習施設に関して、各大学においては通学時間等を考慮し実習施設の再調整が必要となる場合があり、その際は、各大学から機構にその旨申し出ること、機構から当該府県薬剤師会に再調整をお願いする場合があることの説明がなされた。加え

て、実習が確定した施設への契約書等の連絡の解禁日については、各府県薬剤師会から機構に連絡いただきたいこと、各大学においては解禁日を守って進めていただくようお願いがあった。

- ・[3. (3)] 共用試験本試験不合格の場合や各大学の後期試験の結果により、1・2期での実習を辞退せざるを得ない場合が生じる。再試験合格後に実習時期をずらしての再調整が必要となるため、これらの学生を一括で2022年3月に再調整する。2022年4月には、2022年度の最終調整結果が出そろふ予定であるとの説明がなされた。

3. 2023年度実務実習の日程について（案）（資料 協2）

濱口委員長より、資料（協2）に基づき、令和5年度の実習日程案について説明がなされた。中央調整機構より令和5年度の実習日程について、例年と異なり、お正月休みは12月29日から1月4日までとして提示され（例年は12月30日から1月5日）、各期の実習日数は、第1期 50日、第2期 54日、第3期 52日、第4期 53日となることが説明された。年により第1期の薬局実習日数が少ないことがあり、2年前に49日となった場合は、土・日に実施した研修等の代休を設けない等の工夫により、実習日数を51日にするよう努めたことがある。令和5年度の第1期について、土・日の活用を推奨し、実習日数を51日とするかどうか、令和4年度中に決定したいとの説明がなされた。令和5年度の実習期間そのものについては、資料（協2）通りで了承された。

4. 2022年度各府県での連絡会および大学委員の担当者案について（資料 協3）

濱口委員長より、資料（協3）に基づき、11月初旬現在の2022年度各府県の連絡会の日程等について説明がなされ、日程、開催方法、担当大学委員は資料（協3）の通り了承された。なお、兵庫県については、1月から2月にかけて神戸で1回、姫路で1回、ハイブリッド形式で開催を希望しており、集会形式で開催する場合は、神戸会場は神戸学院大学の徳山先生に、姫路会場は姫路獨協大学の柳沢先生に担当をお願いすること、オンライン開催のみの場合は、神戸学院大学の徳山先生をお願いすることの説明がなされ、了承された。説明時のスライドは、濱口委員長が準備し担当者に配布するが、Webシステムの説明に関しては、11月9日に2021年度の改修がなされたものの大きな変更がないため、昨年作成した資料をそのまま使用するかどうかも含め、ワーキンググループにより協議して決定したいとの説明がなされた。なお、各府県薬剤師会においては、連絡会の日程、開催方法が決定したら機構までご連絡いただくようお願いがなされた。

5. その他

濱口委員長より、近畿地区調整機構のホームページ上に施設概要の入力フォームを作成する件について、状況説明がなされた。ベンダーと協議を重ねていたが、仕様が固まるにつれ開発費がかさみ、当初50万円程度を予定していたが、10月下旬に210万円（値引き後）との提示があった。非常に高額であるため、他のベンダーを探す、仕様を見直す等も含め一旦保留としたいとの説明があり、異議なく了承された。

報告事項：

1. 令和2年度第Ⅲ期・Ⅳ期および令和3年度第Ⅰ期の実務実習に関わる報告について（資料 報1-1～報1-5）

濱口委員長より、資料（報1-1, 1-2）に基づき、9月6日に開催された中央調整機構委員会の報告がなされた。まず、関東支部、東海支部の支部長の交代について、続いて、令和2年度第3・4期、令和3年度第1期の実務実習報告については、7月の委員会で資料を配布し説明していること、本委員会で配布している資料は、令和2年度第2期の実務実習報告及びコロナ禍における実務実習に関するものであること、中央調整機構委員会では各地区コロナ禍における実務実習について情報共有したが、各地区同じような状況で進んでいることの報告がなされた。次いで、コロナ禍での薬学教育者ワークショップに関する報告は、7月の近畿地区調整機構委員会において、平田先生（薬学教育協議会）よりワークショップの現状についてご説明いただいた内容とほぼ同様であったこと、三重県で初めてオンライン形式で開催されたアドバンスワークショップが無事に終了したことの報告があった。

引き続き、濱口委員長より、令和3年度第2期実務実習に関わる報告書（資料 報1-3）について、近畿地区は15～17ページに記載されていること、令和3年度第2期実務実習の良い事例報告（資料 報1-4）については、近畿地区は2～3ページに記載されており、一読いただきたいとの説明がなされた。また、コロナ禍において工夫したこと、特に問題になったことなど（資料

報1-5) に関しては、近畿地区は9～10ページに記載されており、令和3年度も薬剤師会主催の集合研修がすべて中止になっていること、実習開始前にPCR検査を受け陰性であることを確認してから実習開始とする施設が複数あったこと、新型コロナウイルスワクチンの接種が病院実習の受入や病棟実習実施の条件となっている施設が増加していること、大学としてワクチン接種の機会があれば積極的に接種するように周知していく必要があると考えるが、強制はできないためワクチン未接種の学生の実習施設が限られてしまう可能性があることなどが報告されているとの説明がなされた。

2. 「病院実習受講者への新型コロナウイルスワクチン接種のお願い」について（資料 報2）

濱口委員長より、本資料（報2）は、兵庫県病院薬剤師会の矢野委員から情報提供いただいた内容であり、近畿地区15大学へは直ちに周知したことが報告された。また、資料（報2）における「病院での臨床実習を滞りなく実施するために学生には新型コロナウイルスワクチンを接種するよう指導願いたいこと」、「ワクチン未接種であることを事前に報告してほしいこと、その場合には病棟等における対人業務に関する実習内容の変更が余儀なくされる場合もあることを了承願いたい」との内容に関して、ワクチン接種の状況について、濱口委員長より以下の説明がなされた。

- ・新型コロナウイルスワクチン接種に関しては、2月から始まった医療従事者の優先接種の際に、薬学部生に関しても施設からの申請により接種可能となったとの文書が厚生労働省から発出されたこと、これを受け、薬局実習に関して、濱口委員長から4月中下旬に各府県薬剤師会にお尋ねしたところ、兵庫県薬剤師会では第2期実習生について前向きに検討いただき、機構から各大学に希望者調査を実施しワクチンを接種していただいた。
- ・病院実習については、各施設の判断により優先接種を実施していただいた。
- ・大学としては、6月中下旬からは職域接種によるワクチン接種の実施や、学生への大規模接種会場を利用した接種を周知するなど、機会あるごとにワクチン接種について周知している。

濱口委員長より、強制接種ではなく任意の接種であるため、各大学には引き続き粘り強く機会あるごとにワクチン接種の周知をすすめるようお願いがなされた。

次いで、室井委員より、日病薬から中央調整機構にお願いしたということで、今後は、各大学から実習施設にワクチン接種の有無を連絡してもらえると理解してよいのか、との質問があった。濱口委員長より、本通知の発出は9月9日付だが、本件に関して中央調整機構から地区調整機構への指示はなかったことが述べられたが、室井委員から病薬の理事会でこの通知を発出したことは報告されており、各県等の病院薬剤師会の理事会でも周知されると考えられるため、病院施設側としては大学から何も連絡がなければワクチンを接種したと理解すると思われるので、この点については情報共有をしっかりとっておきたいとの発言があった。橋詰委員から、現時点では、連絡がなかったらワクチン接種済みと理解するのは厳しいのではないかと、文部科学省、厚生労働省からはワクチン接種を実習受入の条件としないようにとの文書もあり、調整機構や各地区等といった大枠で決めるより、施設ごとに対応するほうが望ましいのではないかととの発言があった。内田委員から、個人情報の保護とどちらに重きを置くのかという悩ましい点もあるが、大学側としては情報提供を求められれば努めて善処したいとの発言があり、室井委員は、ワクチン接種の状況を把握したいという意図であり、個人情報というよりあくまで実習に必要な情報として学生に確認していただきたいと述べられた。矢野委員からは、他の4種のワクチンについては必須であること、春とは状況が異なり接種対象となる国民の8割近くが2回接種している中で医療従事者としてワクチン接種をどう考えるかということ、病院では未だに患者さんは面会禁止となっているなか実習しているため、ワクチン未接種の学生を免疫力の低下している患者のところには行かせられないという施設全体の状況を理解していただきたいこと、学生個別に報告させるのではなく大学が接種状況を把握して担当の教員から連絡していただきたいこと、ワクチン接種の有無で差別はしないが配慮はさせていただくことがあるとの発言があった。室井委員から、兵庫県だけでなく近畿の他府県の状況について意見を求められ、四方委員（京都府）からは、ワクチンパスポートの話も出ているところであり、他のウイルス検査と同様に報告していただければよいのではないかととの発言があった。また、谷口監事（奈良県）からは、少なくとも来年度第1期からは事前に他のワクチン接種と同様に提示いただければありがたいとの発言があった。

平田先生（薬学教育協議会）より、10月4日に協議会の業務執行理事会があり、本件について協議会からは特段の発信はしないと決定されたこと、大学が責任をもってワクチン接種の有無を施設側に提示してほしいこと、施設によってワクチン接種の有無により実習内容に差が出た場合は、大学が責任をもって学生に状況を説明する必要があること、大前提としてワクチン接種を指

導することは当然であること等が話し合われたことの説明がなされた。

濱口委員長より、各大学により個人情報の取り扱いに違いがあり、ワクチン接種の有無に関する情報提供を強制することはできないため、機構として大学から情報提供するよう一律にはお願いできないが、各施設から情報提供の依頼があれば各大学が適切に対応するものと考えたと述べられた。これを受け、室井委員は、大学は責任をもってワクチン接種の状況を管理し、大学自ら情報発信することは個人情報の点から難しいため実習施設から確認すると理解されたと述べられた。

辻委員から、情報共有については非常に重要と考えるため情報共有そのものには同意するが、ワクチン未接種が実習受入不可の理由となるのは望ましくないと考えが、その点どのように考えるかとの質問があった。これを受け、室井委員から、個人情報の取り扱いが各大学により異なるのと同じように、施設によりワクチンプログラムが異なるため、病院薬剤師会からワクチン未接種でも受け入れてくださいとお願いすることはできない、各施設の方針によるということをご理解いただくべきところではないかとの発言がなされた。濱口委員長より、施設と大学とでしっかりと協議し、受入できない場合には施設変更ということもあり得る、中央調整機構委員会においても8ブロック共通して施設変更した事例が報告されている状況であることを各大学理解していただきたいとの説明がなされた。竹上委員（大阪府）から、近畿大学病院では、抗体検査、ワクチンの接種歴を尋ねる様式の中に2021年度第4期からコロナワクチンの接種も追加され、来年度からは全学生に提出してもらう状況であるとの説明があり、本通知を踏まえると大学側から提供していただきたいというのが病院の立場であること、近畿大学病院では、ワクチン接種者はサージカルマスク装着と手指消毒の実施、未接種者はN95マスクとフェイスシールドの装着及び手指消毒の実施と区別しており、厳しい条件の施設もあることは認識しておいていただきたい旨の発言がなされた。

奥野委員（奈良県）から、各大学の薬学部生の接種率を把握しているか質問があり、角山委員から大阪医科薬科大学の場合、職域接種を実施し85%程度であるとの発言があった。奥野委員から、看護学部などではほぼ100%接種しているような状況であり、薬学部においても医療者を育てるという点から、アレルギー等で接種できない学生以外は全員が接種するような雰囲気づくりをお願いしたいとの発言がなされた。

3. 2021年度WS実施計画（近畿地区）（資料 報3）

濱口委員長より、資料（報3）に基づき、実施状況と今後の予定について説明があり、年明けに状況が好転していれば集会形式に切り替えること、オンライン開催では3P9Sでの開催はなかなか難しい点をご理解いただきたいこと、少人数での開催でありお急ぎの先生を優先していただきたいことが述べられた。安原委員（指導者養成小委員会委員長）から、指導薬剤師不足により実習が滞ることのないようオンライン形式で開催していること、追加開催の要望については、各府県薬剤師会、病院薬剤師会から調整機構へ申請していただきたいこと、実情をふまえてワークショップの回数を増やすなど検討したいこと、年明けの様子をみて2月3月の実施方法を決定したいことの説明がなされた。

4. テキスト小委員会の報告（資料 報4-1、報4-2）

内田委員（テキスト小委員会委員長）より、資料（報4-1）に基づき、近畿地区テキスト2022年版改訂作業の進捗状況の報告がなされた。5月19日に2021年度テキスト小委員の全委員に改訂への意見を求め、いただいた意見を参考に改訂作業に入ったこと、現在編集作業に入っており2022年1月15日に発刊、1月20日頃には店頭に並ぶ予定であることの説明がなされた。次いで、資料（報4-2）に基づき、テキストの価格改定について、2022年度版は税別300円の値上げとし4,300円（税別）とすること、当面の間値上げを行わないことを出版社に確認していること、テキスト小委員会の委員からは特段反対はなかったこと、連絡会議での紹介や使用をお願いする文書等を発出するなどにより実習施設で使っていただけるよう働きかけること等をふまえ、価格改定についてお認めいただきたい旨説明があり、異議なく承認された。

5. 実務実習指導管理システムの2021年度改修内容について（資料 報5）

濱口委員長より、資料（報5）に基づき、Webシステムについて、11月9日に富士フィルムより2021年度の改修項目が提示されたが、大きな改訂は昨年と比べれば少ないことが報告された。

6. その他

三宅委員より、2月5日（土）14時から、ANAクラウンプラザにて薬局実習のブロック会議を予定していること、ハイブリッド形式での開催を検討している旨の説明がなされた。

濱口委員長より、1月の調整機構委員会の日程調整について、1月15日に大阪府薬剤師会の連絡会があるため、その前に実施したい旨の発言があり、1月13日（木）または1月14日（金）で調整したいとの説明があった。

（記録担当：角山香織）

配布資料

- 協 1 2022 年度実務実習施設調整の進捗について（2021 年 11 月 1 日現在）
- 協 2 2023 年度実務実習の日程について（案）
- 協 3 2022 年度各府県での連絡会および大学委員の担当者案について
- 報 1-1 第42回病院・薬局実務実習中央調整機構委員会議事次第
- 報 1-2 第 42 回病院・薬局実務実習中央調整機構委員会議事録
- 報 1-3 令和 3 年度 第Ⅱ期実務実習に関わる各地区の報告書
- 報 1-4 令和 3 年度 第Ⅱ期実務実習の良い事例報告
- 報 1-5 コロナ禍において工夫したこと、コロナ禍で特に問題になったことなど
（令和 3 年度第Ⅱ期実務実習）
- 報 2 病院実習受講者への新型コロナウイルスワクチン接種のお願い
- 報 3 2021 年度 WS 実施計画（近畿地区）
- 報 4-1 病院・薬局実務実習テキスト 2022 年度版の主な改訂内容
- 報 4-2 病院・薬局実務実習テキスト 2022 年版の価格改定について
- 報 5 実務実習指導管理システムの 2021 年度改修内容について